しかしながら数理科学の観点からすれば Burch 教授自身の数理モデルに対する理解はそれ自体人口学者に特有のバイアスを避け得ていないように思われた．というのも Burch 教授をも含めた人口学者が「数理モデル」と考えている「理論」を欠いた現象論的モデルは本来，数理モデルのなかでも一部を占める初歩的なものにすぎない．そのよい例は天体運動についてのケプラーの法則であろう．それを「説明」する「理論」は Newton によって与えられた運動方程式と万有引力の法則であったが，この「理論」は同時に物理的世界に対する「数理モデル」であったことを忘れてはならない．この場合理論はそもそも数学という言語で書かれているのである．数理科学としての人口学は数理モデルを単に現象論的・道具的にしかとらえない素朴な観点をはるかに超えたところから始まる．

（稲葉　寿記）

第７回ＣＩＣＲＥＤ総会

カナダ国モントリオール市において開かれた第22回国際人口学会大会の機会を利用して，1993年８月27日午後６時から７時30分にわたって，第７回ＣＩＣＲＥＤ(Committee for International Cooperation in National Research in Demography）総会が行われた．日本からは河野稠果，早瀬保子各委員，人口問題研究所からは廣嶋が参加した．総会では，1989年ニューデリー市で行われた前総会以来の活動報告と規約改正が報告・討論され承認された．経常的活動としては人口関係雑誌抄録（Review of Population Reviews）と多言語辞典が報告され，研究所間研究協力活動としては人口高齢化の人口学的・経済社会的側面，家族計画活動の出生力変動への影響，人口と環境，開発途上国における人口研究の可能性の評価，都市化と人口の地域分布，国際人口移動が人口受け入れ国に与える影響，社会的・政治的構造変化が死亡率の動向と水準に与える影響，女性の移動者の経済的役割，低死亡率国における死亡の社会経済的格差，エイズの人口学的影響の10の活動の経過と今後の予定が報告された．

（廣嶋清志記）

国際社会学会人口社会学研究委員会大会間セミナー

国際社会学会（International Sociological Association）の第41（人口社会学）研究委員会（委員長：William F. Stinner ユタ州立大学教授）の大会間セミナー（組織委員長：Nan E. Johnson ミシガン州立大学教授）が1993年８月24日にモントリオールの会議センターで開催された．このセミナーは現地組織委員長であるモントリオール大学の Victor Piché 教授の配慮と国際人口学会の好意により，国際人口学会大会の付帯会議として同一会場で登録日の空いた会議場を利用して実施された．

このセミナーは以下の８つの部会から構成された．

Ⅰ．The Transition to Low Fertility（座長：Kurt W. Back，報告者：Kurt W. Back, Li-Shou Yang, Orieji Chimere-Dan and Tasneem Carrim, Pierre Ngom and Eliya Zulu）

Ⅱ．Children and the Elderly（座長：Vijayan Pillai，報告者：Nathan Keyfitz, Ghyasuddin Ahmed, Vijayan Pillai and Guang-Zhen Wang, K. P. Singh）

Ⅲ．Female Labor Force Participation and Motherhood Outside the United States（座長：Lori Ann Post Wibert，報告者：Orlandina de Oliveira, Hiroshi Kojima）

Ⅳ．The Social Demography of Disability（座長：Scott Campbell Brown，報告者：Timothy L. Armstrong and Mark Hayward, Rune J. Simeonsson, Scott Campbell Brown）

Ⅴ．Social Inequalities in Mortality（座長：William F. Stinner，報告者：Akbar Aghajanian, Francisca Isi Omorodion, Jorge Ruiz, Bruce A. Christenson and Nan E. Johnson）